

TAITO TOKYO

巡る

SDGs

教育旅行

コンテンツブック

触れる

遊ぶ

台東区

江戸からつながるサステナブル



はじめに

浅草や上野で知られる台東区は、町人文化が大きく花開いた江戸の中心にあり、江戸時代から現代まで何百年もの間、旅の目的地として愛されてきました。皆さんの家族や先生といった周りの大人にも、修学旅行などで台東区を訪れたことがある人がいるかもしれません。現在では、日本だけでなく、世界の国々からの旅行客が台東区を訪れています。

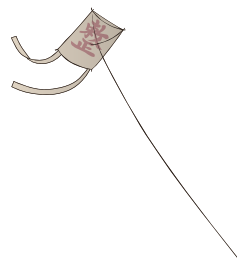
台東区は今でも、江戸時代から続く行事や、歴史的に重要な建物・場所が多く残る街です。寛永寺の門前町として発展し、美術館や博物館などの文化施設が集まる「上野」。古くから浅草寺を中心として栄え、一年を通して数多くの行事でにぎわう「浅草」。古き良き街並みが残り、ふとした路地裏が懐かしい雰囲気「谷中」。江戸通りを中心に問屋街が広がる「浅草橋」。ものづくりの街として発展し、おしゃれなカフェや雑貨店も人気の「蔵前」。

どの地域も歴史と伝統を継承しながら、たくさんの方が集まって発展を続けています。また、かつて災害や戦争といった困難に直面したときには、一人ひとりの力を合わせ、街が一体となり乗り越えてきました。ですから、台東区で暮らす人は「前の世代から受け継いだ文化を次の世代に受け継ぐこと」「様々な人と助け合って生活すること」をととても大切にしています。

このような街の雰囲気の中、台東区には「サステナブルな旅」を実践できるお店や施設が増えてきました。サステナブルとは、「持続可能な」という意味です。世界中の人々や、自然に暮らす生き物たちの幸せを守りながら、これからも共に生き続けるためには、私たち一人ひとりができる努力や工夫を普段の生活に取り入れ、「持続可能な社会」を作っていく必要があります。

持続可能な社会の実現のために、世界の国々はSDGs(=Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標)の達成を目指しています。SDGsとは、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指すための国際目標です。そして、旅の目的地での活動を通じてSDGsの達成に参加できる旅行、それが「サステナブルな旅」なのです。

台東区の「サステナブルな旅」では、新しい時代を生きるあなたたちが主役です。体験・見学を通じてお店や施設の人と話したり、感じたことや考えたことについて調べたりすることで、持続可能な社会づくりのためのヒントが学べるでしょう。台東区への旅を通じてあなたが学んだことが、あなたや周りの人の行動に違いをもたらし、この社会をより良い方向へ変えていくはずですよ。



さあ、コンテンツブックのページをめくり、
台東区への旅に出発しましょう！

田中優子先生からのメッセージ

～江戸から続くSDGsのまち・台東～



浅草は江戸の中でもっとも古い「まち」でした。浅草寺は古代から信仰の対象として、多くの人に知られていましたし、隅田川は能の中にもでてくる有名な場所でしたが、周辺は沼地で決して栄えた場所ではありませんでした。

江戸幕府ができると、人口が増え都市が形成されます。各大名が全国から集まり、江戸はどんどん拡大を続けました。政治の中心が江戸城で、経済の中心が日本橋。別の場所にあった「遊郭」と呼ばれる遊興施設が浅草にうつったことで、浅草にも人が集まるようになりました。交通の便の良さもあったと思います。日本橋から隅田川を使ってアクセスできる浅草は便利な場所だったでしょう。川は当時大事な交通インフラでした。

やがて、浅草には江戸で最も大きな劇場である江戸三座が集中する芝居町もできて次第に人が集まる町になりました。19世紀には信仰と文化の中心地として浅草は大いに栄えました。

人が集まると盛んになるのがリサイクル業です。「紙洗橋」という名前の橋の跡が浅草に残っていますが、かつてこの周辺では古紙再生が行われていました。使い終わったものをちり紙（トイレで使う紙）などに再利用しました。そこから質のあまり良くな

い紙を「浅草紙」と呼ぶようになりました。

現代では皆が必死に取り組んでいるリサイクルは、江戸時代では当たり前のことでした。そもそも「使い捨て」という考えが存在しませんから、無駄にすることを「すたり」と呼び、質素倹約を心がけました。「もったいない」という言葉も、「ものの本来の価値（もったい）が失われる」ことからきています。

稲を刈った後の藁はわらじにして、使い終わったら肥料にしました。布や紙は最後は燃やして灰にします。肥料として使うために灰を買い取る商人もいました。つまり、江戸時代は今と違ってゴミを出すと儲かりました。着物も何度も仕立て直したり、染め直したりして徹底的に使い切ります。お茶碗も割れたら直して使いましたし、そうやって江戸の経済は回っていました。

経済が成長を続けるということがそもそも念頭にありませんでした。彼らは循環する四季の中で生きていました。次の年にも生きられるよう、自然からものを取りすぎないようにしました。そうして一年を大事に過ごしていました。

江戸時代、大事にされたのは「続ける」ことでした。自然にあわせて欲張らないことが大切でした。そもそも経済という言葉も経世済民の略で、人を救

う意味でしたから、SDGsの理想は江戸時代にあるといえるかもしれません。

浅草をはじめとする台東区には、職人を中心としたものづくり文化や、リサイクル精神がまだまだ根付いています。江戸から続くサステナブルを体感して、皆さん自身がSDGsについて考える機会にしてください。



法政大学 名誉教授 田中 優子（たなか ゆうこ）

法政大学社会学部教授、国際日本学インスティテュート（大学院）運営委員長、社会学部長、総長を歴任。専門は日本近世文化・アジア比較文化。研究領域は、江戸時代の文学、美術、生活文化。『江戸の想像力』で芸術選奨文部大臣新人賞、『江戸百夢』で芸術選奨文部科学大臣賞・サントリー学芸賞。その他多数の著書がある。江戸時代の価値観、視点、持続可能社会のシステムから、現代の問題に言及することも多い。2005年度紫綬褒章。東京都男女平等参画審議会会長、サントリー芸術財団理事、『週刊金曜日』編集委員、TBS「サンデーモーニング」のコメンテーターもつとめる。著書に『江戸の想像力』『江戸百夢』『グローバリゼーションの中の江戸』『江戸から見ると』など。共著に『江戸問答』『江戸とアバター』など。

Q1

「台東区」なんて読むの？



A1

「たいとうく」です

「ダイトウ」ではなく「タイトウ」です。「台」はもともと気品の高い文字とされていて、東は「日出ずるところ」、日の出の勢いや力強さの象徴です。それら二つを合わせた「台東」には、「めでたい」「気品」「若さ」「活気」という意味がこめられています。さらに、「台」は上野の高台を、「東」は上野台の東に地理的に位置する浅草を表しています。

Q2

どこにあるの？

ここに
あります

A2

東京都の東側です

台東区は東京23区部の中心よりやや東側に位置し、南は千代田区と神田川を隔てて中央区に接し、西は文京区、北は荒川区、東は隅田川を境にして墨田区に隣接しています。台東区を含めた一帯は、いわゆる「下町」と呼ばれるエリアにあたります。

台東区

こんなところですよ

日本初の地下鉄が上野～浅草間で開通したのが1927（昭和2）年のこと。伝統的な日本文化と下町風情が残る浅草、広々とした公園の中に美術館や博物館などの文化施設が集積する上野。日本を代表する2つの名所を有する台東区は、東京の中で最も個性的な区の一つです。



Q3

どれくらいの大きさなの？



A3

面積は **10.11km²**

1947（昭和22）年に東京23区制がスタートするに伴い、下谷区と浅草区が合併して発足した台東区の面積は23区最小で、もっとも大きな大田区の1/6ほどしかありません。東京都全体の0.46%しかない台東区ですが、東京でも有数の存在感を示しています。人口は207,479人（令和5年1月1日現在）です。

Q4

有名なスポットを教えてください



A4

全国的に広く知られているのは **浅草と上野**

江戸時代から昭和初期にかけて日本一といわれる賑やかさを誇った浅草は東京を代表する観光地で、海外からも多くの観光客が訪れます。上野は日本初の都市公園である上野公園内に多くの文化施設があって、ぶらぶら散歩にもってこい。動物園にいるパンダも人気です。

台東区は大きく5つのエリアに分けることができます。 それぞれの魅力をご紹介します。

谷中エリア

江戸時代から続く寺町で、今なお古い街並みが残ります。賑やかな商店街に、古い建物をリノベーションしたお店など、見どころがたくさんあります。起伏に富んだ土地で、細い路地も多いのでぶらぶら散歩を楽しめます。

上野エリア

徳川將軍家の菩提寺である寛永寺、動物園、博物館、美術館など文化と芸術がギュッと詰まったエリア。上野動物園は日本で初めてパンダを飼育したことで知られます。線路沿いに多くの商店が軒を連ねるアメ横も人気です。

浅草橋エリア

浅草橋駅から蔵前駅まで続く江戸通り沿いには、花火、アクセサリー、生活雑貨や玩具など多くの問屋が並び、ものづくりに携わる人がやって来ます。川沿いには屋形船の乗り場もあり、江戸の情緒を感じることができます。

浅草エリア

古くから浅草寺の門前町として栄え、江戸時代には芝居など大衆娯楽の発信地として存在感を示した浅草は、都内で随一の賑わいを見せました。江戸時代から続く店も多く、国内外を問わず多くの観光客が訪れています。

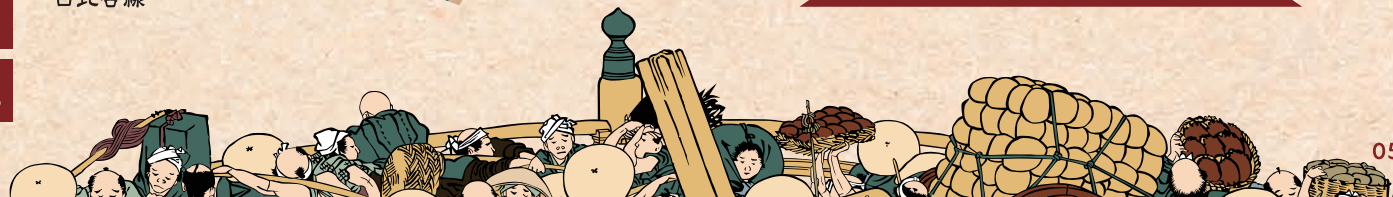
徒蔵エリア

隅田川の水運を利用して栄えたこの一帯は、昔からのづくりがさかんな街で、江戸から続く老舗や手作り工房が多くあります。最近ではカフェや個性的なショップが多く並ぶおしゃれエリアとしても知られています。



台東区 全域図

サステナブルが息づく台東区で
SDGsへの理解を深めましょう。



其ノ一
上野東照宮

貴重な江戸初期建築から学ぶSDGs



できること



メニュー
金色殿、日光の眠り猫と同じ左甚五郎作の唐門の昇龍降龍など見学 合計15分程度
※口頭での案内はありません

料金
500円/人 20名以上400円/人
(小学生200円/人 小学生の団体割引はありません)

SDGsであてはまる項目

- 4 質の高い教育をみんなに
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
- 8 つくる責任つかう責任
- 15 陸の豊かさを守ろう

其ノ二
浅草神社

神社参拝の作法と一緒に礼儀も学ぼう



できること



メニュー
10分 社殿見学
10分 正式参拝
10分 講話
合計30分

料金
1,000円/人

SDGsであてはまる項目

- 4 質の高い教育をみんなに

浅草神社の社殿は慶安2（1649）年に徳川三代将軍家光公により寄進・建立されたもので、国の重要文化財に指定された貴重な木造建築物です。その社殿で正式参拝を行い、神社参拝の作法を学びます。日本人は昔から七五三や初詣など、神社に足を運び参拝（お参り）をする習慣がありました。とても身近な存在なのに、肝心の神社参拝の正しい作法を教えてもらうことがありません。この機会に参拝マナーや礼儀を学びましょう。

株式会社宮本卯之助商店



SDGsでさらに進化
太鼓づくりの技と伝統が

できること



浅草には祭りを盛り上げ、継承してきた歴史と、これを支えてきた職人の気質が町中にあふれています。繊細な技法で生み出され、祭りを盛り立てる神輿や太鼓などもその一つです。近年、太鼓作りにおいては、原材料となる原木や森林を保護するため、様々な取り組みが始まっています。和太鼓作りの伝統、祭り文化継承の歴史、自然保護活動の意義を、見学や体験を通じて学んでみませんか。



メニュー	SDGsであてはまる項目
20分 工場見学	8 つくる責任つかう責任
30分 和太鼓実演 移動(20分)	15 陸の豊かさを守ろう
20分 太鼓館見学	
合計90分	
料金	
6,600円/人	

株式会社時代屋



古いけど新しい!
究極のエコカー人力車

できること



浅草といえば人力車。日本発祥で誕生から150年の時を超えて活躍しています。人の力で動く究極のエコな乗り物は、交通手段から観光アトラクションへと役割を変え、昔ながらの姿で浅草を走っています。鉄・木などリサイクル可能な素材で作られた人力車は、上手に使用すれば100年以上使えます。人力車の歴史をビジュアル資料を含めて解説するとともに、実際に乗って持続可能な観光のあり方を学びましょう。女性車夫も注目。



メニュー	SDGsであてはまる項目
40分~60分 人力車の歴史解説と 人力車乗車体験。 ※オプション/人力車を引く体験、 明治・大正時代の人力車を使った説明 別メニューもあり(要相談)	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も
料金	11 住み続けられるまちづくりを 17 つくる責任つかう責任
3,300円~6,600円/人 ※実施内容による	